

金沢市発表要旨

- ・ **第一に、金沢の紹介.**

- ・ 金沢は日本の中央部に位置する人口 45 万人の都市で、美しい自然、伝統的なまちなみを有する、平和と文化の相関関係を実証してきたまち。
- ・ 中世の領主が武力による争いを避けて、文化の振興に力を注いだことにより、今日まで平和を保ち、文化の振興からユネスコ創造都市ネットワークに認定された工芸が生まれてきた。
- ・ 現在も市内製造業事業所の約 20%ほどが工芸関連。
- ・ 同時に、金沢は伝統と創造のまち。
- ・ 伝統を守るだけでは、まちの活力そのものが失われていく。革新のアイデアを加え続ける必要がある。例えば、金沢の伝統的な陶器である九谷焼も、現代のライフスタイルにあわせ、ワイングラス等を開発。

- ・ **第二に、これまでの取組.**

- ・ 最も大切なのは人材であり、それも域外から誘致してくるのではなく、域内での育成に努めてきた。
- ・ 金沢は 50 年以上も前に、市立の美術工芸大学を設立し、人間国宝から最先端の産業分野で活躍するクリエイターまで多くの人材を輩出。
- ・ また、2004 年には現代美術館である金沢 21 世紀美術館を創設し、人を豊かにする芸術・文化的な刺激を生み出している。年間 150 万人以上の来館者。

- ・ **第三に、これからの取組.**

- ・ 人材育成に続く、現下の課題として、文化のビジネス化。

- ・ 今年「文化とビジネスをつなぐまち」、「人を育み豊かにするまち」、「世界を惹きつけるまち」の3つの将来像を掲げて、具体的な取組を盛り込む創造都市推進プログラムを策定することとしている。
- ・ 行政、産業界、市民団体から構成する推進委員会がプログラムの策定にあたり、互いの知識・経験を持ち寄ることで、特に文化のビジネス化について、より効果的なプログラムになるものと考えている。
- ・ 具体的な取組では、2010年5月に世界工芸トリエンナーレを予定している。
- ・ 今年10月にそのプレイベント、世界創造都市フォーラム、金沢版クリエイティブ・ツーリズム等を予定している。

- ・ **最後に、国際的な視点。**
- ・ 金沢出身の世界的な仏教学者である鈴木大拙は、30年以上前に、「大量生産・大量消費の時代になって、人々の創造性が押さえつけられると、人類は誤った方向へ進んでしまう。健全な創造性こそが必要である」との趣旨を述べている。
- ・ 現代にも十分通ずる言葉で、ユネスコ創造都市ネットワークの枠組みを活かし、豊かな創造性ある社会を構築していく試みが、ひいては、世界平和にも資すると考えている。
- ・ ネットワークの取組、あるいは同じ分野、地域、都市規模などによるサブネットワーク等の取組も有益。
- ・ アジアでは、日本に3つ、中国に1つのユネスコ創造都市があるが、是非、韓国からもネットワークへの加盟都市が出ることを期待している。